

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	KC	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	4 年	派遣国	イギリス
派遣大学	リーズ・トリニティ大学		
期 間	2025 年 9 月 22 日～ 2026 年 5 月 1 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	○
滞在費	約 (90,000) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩) で、約 (0) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	25,000～30,000 円	自炊：お米(Amazon)、その他食材(スーパー)
学用品購入費	0 円	
交通費	5,000 円	電車(City Center)、時々Uber
交際費	10,000 円	カフェ、パブ、映画など
その他	15,000 円	部活動(年間 2 万円)、ジム(月 3000 円)、雑費
合計	60,000 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

大学のある Horsforth はとても治安が良く、暮らしやすい小さな町です。夜になると細い道は街灯が少なく暗い印象はあるが、駅から大学につながる道は比較的明るく、車通りもある程度あるため、安心して過ごすことができます。

一方で、リーズの中心駅である City Center の方は、遅い時間になると少し危ない印象があります。どの時間帯でも基本的に人は多いが、夜中になるとクラブを出入りする若者が多

く、身の危険を強く感じるほどではないが、治安がいいとは言えないかなという印象です。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(9) ヶ月間	保険料	(93,080) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	The Immigration Health Surcharge (ビザ申請時)		
加入期間	(9) ヶ月間	保険料	(159,550) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (**Leeds, Horsforth**)

Leeds はイングランド北部に位置する都市で、近くにはマンチェスターやヨークがあります。リーズにはリーズ・ブラッドフォード空港という空港があるが、小さい空港のため、日本からの便は大抵マンチェスター空港着になります。マンチェスター空港からは 2 時間半程度でバスや電車で Leeds まで行くことができます。Leeds の中心である City Center には、ショッピングセンターなどの商業施設が多くあり、大学からの最寄り駅である Horsforth から 10 分程度のためとても便利です。

Horsforth は、とても治安が良く落ち着いた小さな街です。建物が美しく、歩いているだけでも癒されます。スーパーの店員さん、すれ違う地元住民、カフェの店主など、とても優しく素敵な人が多いです。安心した留学生活を送ることができる環境だと思います。

【学業編】

1. 大学情報

大学	Leeds Trinity University	所在地	Horsforth, Leeds, England
最寄空港	Manchester Airport *Leeds Bradford Airport が最寄り空港だが、小規模のため、日本からの便はない	空港からの距離	マンチェスター空港から約 90km/電車乗り継ぎ 2 時間～2 時間半
空港⇄大学	(Manchester Airport Station 電車 2 時間半→ Leeds Station 電車 15 分→ Horsforth Station 徒歩 15 分→ Leeds Trinity University) *移動手段		
学生数	およそ 5,000 人	留学生数	おそらく 50 名程度 (正確な人数は、確認できないが非常に少ない印象)
学部	School of Business and Law School of Computing and Creative Industries School of Education and Childhood School of Health and Life Sciences School of Social Sciences *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	Education and Childhood の科目を多く受けだが、交換留学生のため明確な所属学部・専攻はなし 取れない科目もあるが、基本的にほとんどの科目を履修可能 *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(12)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前			Critical Issues in the Lives and Education of Young Children (10:00-12:30)		Language: Gender and Sexuality (11:00-13:00)
午後	Children's Learning and Development (13:30-16:00)	Ethical Foundations (14:00-16:30)			

② (1)月～(4)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前			Critical Issues in the Lives and Education of Young Children (10:00-12:30)		Language: Gender and Sexuality (11:00-13:00)
午後	Safeguarding and Child Protection (13:30-16:00)	Ethical Foundations (14:00-16:30)			

3. 履修内容

科目	Children's Learning and Development (CYP4075)		
履修期間	9月～12月（秋学期のみ）	単位数	15 (ECTS 7.5)
授業内容／形態	<p>子どもの発達を、身体・認知・言語など多角的な側面から考察し、その発達に影響を及ぼす要因や、子どもが周囲の環境の中でどのように成長していくのかを検討する講義。</p> <p><授業形態> 一斉授業&ディスカッション&グループワーク</p> <p><学生数> 20人</p>		
成績	62		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目 A）	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	Safeguarding and Child Protection (CYP4065)		
履修期間	1月～4月（冬学期のみ）	単位数	15 (ECTS 7.5)
授業内容／形態	<p>現在の法律や政策、研究などを踏まえ、児童保護の課題について、子どもと関わる職業における実際の場面を想定しながら、子どもの状況やニーズをどのように理解し、どのように対応していくことができるかを学ぶ講義。</p> <p><授業形態> 一斉授業&ディスカッション&グループワーク</p> <p><学生数> 20人</p>		
成績	65		
YCU 振替予定	科目	特別講座（留学科目・共通教養 A）	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	Ethical Foundations (PER4013)		
履修期間	9月～4月（通年）	単位数	30 (ECTS 15)
授業内容／形態	<p>様々な倫理理論を批判的に検討し、それぞれの長所と短所を議論することで、道徳的な真理を探究する講義。</p> <p><授業形態> 一斉授業&ディスカッション&グループワーク</p> <p><学生数> 15人</p>		
成績	62		
YCU 振替予定	科目	現代倫理学、哲学的人間論 A、特講（国際教養学部留学科目 H）	

	単位数	6
	担当教員	有馬 齊、川瀬和也

科目	Critical Issues in the Lives and Education of Young Children (CYP6023)		
履修期間	9月～4月（通年）	単位数	30 (ECTS 15)
授業内容／形態	<p>哲学的・歴史的・心理的・教育学的視点から、子どもの生活と幼児教育の実践を考察し、現代的課題に対して批判的思考を育むことを目的とする講義。</p> <p><授業形態> ディスカッション</p> <p><学生数> 15人</p>		
成績	72		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目 B, C, D）	
	単位数	6	
	担当教員		

科目	Language: Gender and Sexuality (ENG5643)		
履修期間	9月～4月（通年）	単位数	30 (ECTS 15)
授業内容／形態	<p>言語・ジェンダー・セクシュアリティに関わる社会的問題を取り上げ、関連する理論や会話データなどを用いて、独創的かつ批判的に考察する講義。</p> <p><授業形態> ディスカッション</p> <p><学生数> 7人</p>		
成績	60		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目 E, F, G）	
	単位数	6	
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

約 8 か月間のイギリスでの留学生活の中で、多くの新しいことに触れ、楽しいことだけでなく、難しいことや辛いことも経験しました。留学に行くことを決めた時から、良いことばかりではなく、予想もしないような辛く嫌なこともきっとあるだろうと思っていました。しかし、実際に経験してみると、想像していた以上に難しく、複雑な感情を抱くこともありました。

日本から遠く離れた知らない土地で一人で生活することは、刺激に溢れ、新鮮な経験である一方、自分の目の前にある物事を、自分自身でどうにかしなければならないという責任も伴います。そのことを、この留学を通して強く実感しました。しかし、こうした感覚は、実際に渡航して生活を始めてみなければ分からなかったことだと思います。どれだけ渡航前の自分に言い聞かせたとしても、本当の意味では理解できなかったと思います。そういった意味でも、思い切って留学に挑戦し、こうして自分の経験を振り返ることができていることは、留学を通して得た大きな財産だと思います。人生の中で、このような経験ができる機会は限られています。その中で、大学生という比較的自由な時間のある時期に留学を経験できたこと、そして留学を支えてくれた家族や周囲の環境に、とても感謝しています。

以上が留学を終えての全体的な感想ですが、ここからは、留学を経た自分自身の変化について具体的にまとめたいと思います。

まず、英語力についてです。留学前は、PE センターに何度も通って勉強し、IELTS 6.5 を取得したものの、実際に英語を使う場面では、あまり自信を持つことができていませんでした。交換留学を通して、周囲に日本人や留学生が多くない環境の中で、現地の学生と積極的に交流し、英語を使う機会を増やしたことで、現在はある程度の自信を持てるようになりました。正確には、英語そのものが劇的に上達したというよりも、英語を話すことに慣れ、心理的なハードルが下がったという感覚です。帰国後、まだ IELTS を受験していないため、客観的にどの程度英語力が変化したのかは分かりませんが、自分の中で英語に対する恐怖心が大きく薄れたことは実感しています。ペラペラに話せるようになったわけではないかもしれませんが、相手の言っていることを聞き、自分の伝えたいことを伝えるという基本的なコミュニケーションができるようになったことで、今では自信を持って英語で人と関わることができています。特に、初対面の人に対して、自分から明るく挨拶できるようになったことは、自分の中で大きな成長だと感じています。

次に、留学を通して得た専門的な学びについてです。もともとイギリスのインクルーシブ教育に興味があり、留学先では教育に関連する科目をいくつか履修しました。日本にいても、イギリスの教育制度や実践について調べることはできました。しかし、実際に現地で学ぶことで、授業で得られる知識だけでなく、普段の生活の中で気づく視点や、イギリスが社会として抱えている課題や現状を、より身近に感じることができました。例えば、街中のバリアフリー設計、宗教的なイベントや建物、さまざまな背景を持つ人々が異なる職業に就いていること、地域ごとの雰囲気など、日常生活の中にあるさまざまなものが学びの手掛かりになりました。このような経験を通して、実際に現地で生活しながら学ぶことの意義を大いに感じるすることができました。

最後に、人とのつながりについてです。広い世界の中で、さまざまな言語や文化、生活がある中で、同じ時間を過ごし、感情や思い出を共有できることは、とても素晴らしいことだと強く感じました。自分がこれまで生きてきた世界の外にも、たくさんの人がいて、たくさん笑顔に溢れていることに気づけたことは、これからの人生をより自由に、そして自信を持って生きていくための大きなきっかけになりました。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

今後は、留学を通して鍛えた英語力をさらに向上させるとともに、専門的な知識もより身につけ、将来の英語教員として必要な知識や技能を養いたいと思います。また、留学を通して、自分がどのような環境を作るかが非常に重要だと感じるようになりました。例えば、人との交流を増やしたいのであれば、自らコミュニティに入り、そうした機会を意図的に作ることで、自分を行動せざるを得ない環境に置くことができます。このように、積極的に自分になりたい姿や成長できる環境を自ら作ることによって、継続的に行動することができると思います。そのため、今後も自分自身に負けず、自分になりたい姿に近づいていけるよう、積極的に環境を作り、さまざまなことに挑戦していきたいと思います。

また、交換留学を通して、現地の学生に温かく支えてもらい、安心して楽しく留学生活を送ることができました。そのため、今度は自分が、横浜市立大学に來ている留学生に安心感を与えられるようなサポートをしたいと考えています。交換留学に行く前には気づかなかった視点や感情を持つことができたことも、留学を通して得た大きな学びの一つです。遠く離れた国の大学同士がつながり、その関係を維持できていることは、とても素晴らしいことであり、決して当たり前のことではないと思います。今回、自分自身がその制度を利用し、現地で多くの人に支えてもらったことで、このようなつながりや制度の貴重さを改めて実感しました。だからこそ、今度は自分にできる形で、留学生を支えたり、大学同士のつながりを大切にしたりすることで、これまで受け取ったものを少しでも恩返ししていきたいと思います。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

交換留学を考えている方に、一つだけ伝えたいことがあります。それは、「準備ができる前に動く」ことです。交換留学に行きたいと考えたとき、まず気になるのは、英語力や費用などだと思います。「英語力をつけてから」「留学費用を確保してから」と考えていると、なかなか動き出すことができず、モチベーションも上がりにくいと思います。だからこそ、すべての準備が整うのを待つのではなく、とりあえず行動してみることをおすすめします。例えば、グローバル推進室に話を聞きに行く、語学試験の受験を申し込むなど、まず動いてみることで、自然と次の行動につながります。英語試験も、一度申し込んでしまえば、それに向けて勉強するきっかけになります。また、留学費用についても、奨学金などさまざまな制度があるため、最初から「費用が足りないから無理」とあきらめず、まずは調べたり、応募したりしてみるといいと思います。自分自身も、留学を決めてから、英語試験に向けて PE・Writing センターを毎週予約し、固定で週 2 回通いました。また、英語試験にも早めに申し

込み、奨学金についても、応募できるものにはできる限り応募しました。PE・Writing センターについても、「もう少し英語が上達してから行こう」と思っている人も多いと思いますが、とりあえず一度行ってみることをおすすめします。実際に行ってみることで、意外とハードルが下がり、英語学習のモチベーションにつながります。

もちろん、留学に行くまでにも、留学中にも、大変なことや思い通りにいかないことはあると思いますが、一つ一つを乗り越えて、皆さんがそれぞれ思い描いた留學生活を送ることができることを願っています。